

初冬の西穂高へ行く

絶好の天気と思いきや、新穂高はやや曇、スキーも持参したが、積雪はご覧の通り。今年は、予想通りの暖冬で、ゲレンデにも行きはほとんどない。しかし、朝一番のロープウエーは、超満員。ツアーの観光客で一杯である。



途中、見えるはずの笠が岳もご覧の通り、雲の笠がかかってしまって、ほとんど見えない。新穂高スキー場、三十周年記念ということで、料金が割り引きになっていた。半日券、1日券の人は、露天風呂が無料、その他は割り引きになっている。



一歩、登山道に入れば冬山の世界だ。登山口から西穂高まで積雪は少ないながら、一步一步、注意して歩かなければならない。久しぶりの登山で張りきって、ハイペースで登ったが、すぐに息が切れてしまった。西穂高の小屋に着くと、もうそこは厳冬期の山の気配がした。



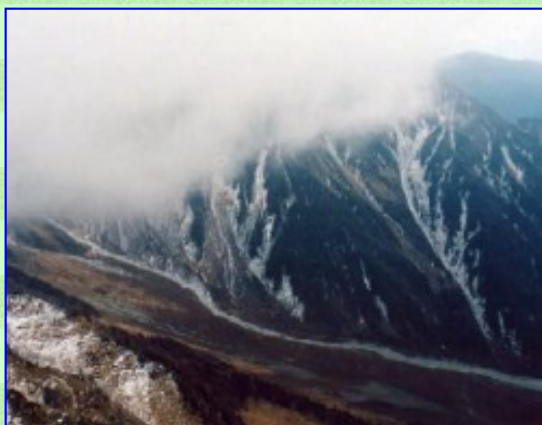
もう前がガスって、何も見えない。写真は、時折り見える晴れ間のショットである。稜線はかなり風が強く、目で帽が欲しいと思った。かなり着込んだつもりだが、立ち止まると、大変冷たく感じる。



条件さえよければ、西穂高までと思っていたが、冬山の完全武装ではなかったもので、このままでは、独標か、ピラミッドまでだろう。下から、吹き上げる風が、体感温度をぐんぐん下げる。



ようやく、独標にたどり着く。次第に天気は回復の兆し。頑張って頂上が見えるまで待つことにした。アイゼンがなく、ピッケルだけなので、これ以上は困難であると感じた。頂上へ向かう、他の登山者は、ここから、アイゼンをつけてフル装備で出発している。しばらく頑張って待っていると、上高地の方がようやく、開けてきた。写真は岳沢ヒュッテの沢付近である。

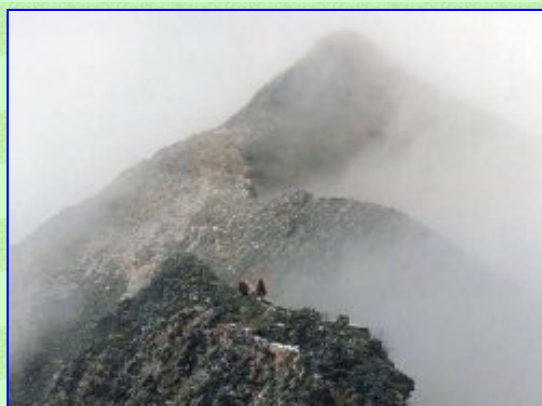


西穂高岳からの下山者のグループにあった。顔、全体が凍りついているようだったが、それぞれ登頂した満足感に満ち溢れていた。前日、西穂高山荘のキャンプサイトで宿泊したらしく、これから撤収し、焼岳経由で下りるそうである。



ようやく、ピラミットピークが見えた。尾根づたいには、これからのぼろうとする、登山者のグループが見える。

かなり頑張ってみたが、今日は大変寒くて、これ以上頂上や、西穂高頂上、槍・奥穂高等の展望を期待することは無理と判断したので、さっさと下りることにした。途中、露天風呂に入ったが、なかなかよい温泉で、セットのビールもおいしかった。



2000.12.9新雪を求めて新穂高スキー場へ行く。